

サポート

肝炎医療コーディネーターって？

肝炎に関する専門的な知識を持ち、情報提供や肝炎ウイルス検査の促進、検査後のフォローアップなどで患者さんをサポートするのが肝炎医療コーディネーターです。都道府県単位で養成し、佐賀県では昨年度までに約1400人が登録。看護師や保健師、事務職、薬剤師など、幅広い職種に広がっているのが特徴です。県内で活躍する4人のコーディネーターに、活動にかける思いを聞きました。

医療従事者

ほか
報道関係者

産業保健関係者

患者

自治体職員



看護師

ふじおか病院(佐賀市)

柿崎衣里さん(46)

治療の大切さ伝えたい

2004年から、病棟との連携の窓口になる外来部長を務めています。副院長に勧められ、11年にコーディネーターになりました。自分がB型、C型肝炎だと知らない人や、治療薬の副作用を心配し、治療を見送っている人も多かったのですが、病院のフォローは決して十分ではありませんでした。

こうした状況でコーディネーターになり、治療費助成のお手伝いなど患者さんのフォローを意識してきました。肝炎の検査から精密検査につなげることも大切な仕事です。病院全体の意識も高まり、14人がコーディネーターの資格を持っています。

今は、定期的に病院に来てくれる患者さんが増えたと感じます。肝炎に関する県民の知識が高まり、治療せずに放っておいてはいけない、と多くの人が理解したことが大きいです。

それでも、仕事の都合などで来院できない人はいます。半年ごとのエコー(超音波)検査などはどうしても足が遠のきがちです。肝炎では多くの場合、症状が出ないことが対応を難しくしています。

医師ではなく、看護師だからこそ伝えられることがあります。患者さんの気持ちをくみ取り、治療の大切さを伝えるアプローチが大切だと思います。



薬剤師

養正会薬局(佐賀市)

池西明子さん(35)

相談しやすい薬局をつくる

2013年にコーディネーターの資格を取りました。佐賀大の肝疾患センターと薬剤師会との連携に興味を持ち、他職種のコーディネーターとの連携を深めたいとも思っていました。

薬について説明することは、薬剤師としての大きな役割です。もう一つの重要な役割が、患者さんからの相談に答えることです。薬局は薬以外のことも相

談しやすい場所になっているのか。その疑問を、患者さんの態度から感じ取っていました。コーディネーターのバッジについて尋ねられ、そこから無料検診の話に発展したりもします。専門のスタッフが在籍していることが伝われば、相談をしやすいくなります。そのきっかけができています。

肝炎の治療では服薬の継続が重要ですが、特に、内服期間が長期にわたるB型肝炎では、飲み忘れや飲み残しも多いです。患者さんも薬を飲むべきことは分かっています。それでも飲まないのはなぜか。リラックスした会話の中で原因を探り、薬を飲まないリスクを感じてもらおうよう努めています。

コーディネーターとしての活動は、薬剤師の仕事の延長線上にあり、特別なものではありません。研さんを積んで知識を深め、薬局全体でも共有していきたいです。

多職種で幅広く

感情動かし行動促す



キャスター

NHK佐賀放送局

田中愛理さん (27)

昨年、ゲストとして番組にお招きした前佐賀大医学部附属病院肝疾患センター長の江口有一郎先生の勧めで、コーディネーターになりました。資格を取りたいと思ったのは「伝える上で、正しい知識を持っていないといけない」と感じていたからです。

表面的な知識だけでは、知らない人に伝えるのは難しいです。正しい知識があれば、ポイントを見極めて放送することができますし、「伝えたい」というモチベーションにもつながります。

通常の状態、肝硬変、脂肪肝の肝臓の触感を体感できるVR(仮想現実)装置をリポートした時は、触った感想だけで終わるのではなく、視聴者に何を感じてほしいかを意識しました。具体的には、検査を受けるという行動につなげたいと考えリポートしました。

患者さんと接する機会は少ないですが、番組を通じて幅広い人に情報を届けることができます。ただ、それだけでは検査に行ってもらうのは難しいです。患者さんや専門医、コーディネーターの生の声を伝えることで感情を動かし、行動を促したいです。

ウイルス性肝炎の場合、正しく知って正しく行動すれば、大部分が予防、治療ができます。ならば行動しない手はありません。決して怖くないし、医療従事者も支えてくれるので向き合ってほしい。そう伝えたいです。



臨床検査技師

小城市民病院

松永滝平さん (33)

主治医と専門医橋渡し

患者さんの血液などを調べ、心電図やエコーなどの生理検査を行うのが臨床検査技師です。肝炎の定期検査で血液検査とエコー検査を行い、肝がんがないか、肝硬変へ進んでいないかなどを調べます。

コーディネーターになったのは2012年。仕事柄、肝炎との関わりは深いですが、最初は何をすればいいのか分かりませんでした。仕事に合った資格の生かし方を考える中で、臨床検査技師の強みと弱みに気付きました。

患者さんとの触れ合いは少ないですが、検査結果を最初に把握できる立場にあります。この強みを生かし、主治医と肝臓専門医の橋渡し

しができるのではと考えました。内科以外を受診した場合、別の疾患の治療が優先される場合があります。主治医と専門医の間に入ることで、検査結果を確実に肝炎治療につなげるシステムづくりを進めました。

触れ合いが少ないといっても、エコー検査では患者さんと話す機会があります。治療が終わったと思っ定期検査に来なくなるといよいよ、声掛けを心がけるようになりました。資格を取ったことで、患者さん一人一人のストーリーが見えるようになってきました。定期検査に来てもらうために欠かせない、患者さんとの信頼関係を築いていきます。

肝炎医療コーディネーターになるには…

！ 佐賀は職種に制限なし

佐賀県が実施する養成研修を受講し、修了試験に合格すればコーディネーターとして登録されます。佐賀県では2011年から養成が始まり、昨年度は137人が登録。知名度の向上を背景に、ここ数年は応募者数が増加傾向にあります。全国では昨年度までに

約1万6500人が養成されました。職種に制限を設けていないのが佐賀県の特徴です。本年度は11月15日(日)に開催予定ですが、新型コロナウイルスの影響で開催方法は検討中です。決まり次第、肝疾患センターのウェブサイトでお知らせします。

肝臓なんでも相談窓口

☎ 0952-34-3731

(平日10:00~16:00)

佐賀大 肝疾患センターでは、患者さんやコーディネーターからの相談を受け付けています。お気軽にお電話ください!



肝疾患の専門知識を持ち、患者さんをサポートする人たちの名称は?

- A. 肝炎医療コーディネーター
- B. 肝がん撲滅コーディネーター
- C. 肝炎患者さんサポート隊

第1問

第2問目と応募要項は16面へ!

最近の肝臓病TOPICS

国内では肝硬変や肝がんの原因の大半はC型を中心とする肝炎ウイルスが占めてきましたが、近年はウイルス感染以外の、脂肪肝によるものが増えています。原因はアルコール、非アルコールに大別され、飲酒や運動など生活習慣に深く関わるだけに、予防には正しい知識を持つことが重要です。

NAFLD 他人ごとと思わず定期検査を

脂肪肝は原因によってアルコール性と非アルコール性に分類され、非アルコール性をNAFLD(ナッフルディー)と呼びます。このうち単純脂肪肝がNAFL(ナッフル)、NAFLから徐々に進行する肝疾患がNASH(ナッシュ)です。NAFLDの患者さんのうち2〜3割程度がNASHとみられ、放置すると5〜20%が肝硬変に進行、そのうち年間約2%が肝がんを発症するといわれています。

お酒の飲み過ぎや食べ過ぎによって肝臓に中性脂肪が過剰にたまる脂肪肝は、人間ドックを受けた成人男性の約3割に見つかります。肥満やメタボリックシンドロームの増加によってNAFLDの患者数は増えていますが、自覚症状がほとんどないため、エコー(腹部超音波)検査が重要になってきます。

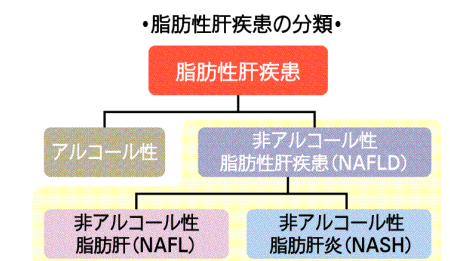
しかし、定期的なエコー検査を受ける人は多くありません。佐賀大医学部附属病院肝疾患センター助教の磯田広史

さんは「検査を受けていない方で、突然大きながんが見つかるケースも目立ちます」と話します。非アルコール性の脂肪肝が肝硬変、肝がんにまで進行するという比較的新しい知見が、専門医からかかりつけ医、患者さんまで浸透するのに時間がかかっていることが、こうした状況につながっていると磯田さんは分析

します。一方で脂肪肝がある人の数は膨大なため、その中からどの患者さんを専門医に紹介するのか、かかりつけの医師も迷うことがあるといます。NASHの初期はNAFLとの区別が難しく、定期的なチェックが重要



佐賀大医学部附属病院 肝疾患センター 助教 磯田 広史 氏



磯田さんは「検査を受けていない方で、突然大きながんが見つかるケースも目立ちます」と話します。非アルコール性の脂肪肝が肝硬変、肝がんにまで進行するという比較的新しい知見が、専門医からかかりつけ医、患者さんまで浸透するのに時間がかかっていることが、こうした状況につながっていると磯田さんは分析

佐賀大医学部附属病院は、全国でも珍しいNASHの専門外来を設けています。NASHは肝臓と糖尿病・内分泌疾患との関連が深いとされ、それぞれの専門医が連携してきめ細かい診療を提供しています。

アルコール 適度な酒量知ることが一歩

アルコールは飲み過ぎると肝臓病を引き起こします。ウイルス性とは異なり、アルコール性の肝臓病は飲酒の量や頻度をコントロールすることで、自らの意志で発生を予防することができ

推奨されているのは、ビールや日本酒、焼酎など異なる種類のお酒でも純アルコール量で比較できる単位「1ドリンク」の活用。1ドリンクは純アルコール10gで、酒に強い健康な男性は1日2ドリンク以下が適

飲酒量を減らすことで、肝機能改善のほか血圧、血糖値の低下などの効果も期待できます。ただ、長年の習慣を急に変えるのは難しく、少しずつ飲酒量を減らすことが大切です。「休肝日をつくる」「500ミリ

度な飲酒量は1日2ドリンク以下(酒に強い健康な男性)

日本酒 1合	ウイスキー ダブル1杯	ビール 中瓶1本(500ml) 2ドリンク
缶チューハイ 1缶(350ml) 2ドリンク	焼酎 1合 3.5ドリンク	ワイン グラス1杯 1ドリンク

アルกอฮอล์は飲み過ぎると肝臓病を引き起こします。ウイルス性とは異なり、アルコール性の肝臓病は飲酒の量や頻度をコントロールすることで、自らの意志で発生を予防することができ

推奨されているのは、ビールや日本酒、焼酎など異なる種類のお酒でも純アルコール量で比較できる単位「1ドリンク」の活用。1ドリンクは純アルコール10gで、酒に強い健康な男性は1日2ドリンク以下が適

飲酒量を減らすことで、肝機能改善のほか血圧、血糖値の低下などの効果も期待できます。ただ、長年の習慣を急に変えるのは難しく、少しずつ飲酒量を減らすことが大切です。「休肝日をつくる」「500ミリ

の缶ビールを350ミリに変える」「飲み会の回数を減らす」など、自分に合った方法で減酒に取り組みましょう。



肥前精神医療センター 精神科医師 福田 貴博 氏



医療法人 江口病院

ロコメディカル 江口病院

診療科目

- 内科 ●消化器内科 ●呼吸器内科
- 循環器内科 ●リハビリテーション科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	休	休
14:00~18:00	●	●	●	●	●	休	休	休

関連施設

健診施設、デイケア三日月、デイサービスよろず庵、住宅型有料老人ホームシニアハウスよろず、訪問看護ステーション三日月、居宅介護支援事業部



〒845-0032 佐賀県小城市三日月町金田1178-1
TEL0952-73-3083 FAX0952-72-5773

理事長 江口 尚久
副理事長 江口 有一郎

院長 黒木 茂高
副院長 荒木 紀匡

CM効果でウイルス検査増!

ストップ 肝がん!対談

はなわさん

江口有一郎氏



肝がん撲滅を目指し、2012年に佐賀県内で始まった「肝炎対策キャンペーン」。そのテレビCMに起用されたタレントのはなわさんは、8年にわたって肝炎検査の重要性を訴え続け、「肝炎対策といえばはなわさん」というイメージが県民に定着しています。昨年度まで佐賀大医学部附属病院の肝疾患センター長を務めた医療法人人口コメディカル総合研究所(小城市)の江口有一郎所長とはなわさんに、キャンペーンを振り返ってもらいました。

はなわさんを起用した経緯を教えてください。

江口 何とんでもなく「佐賀県」(03年)の大ヒットで、佐賀の皆さんがはなわさんを知っているし、誰よりも県民に対して伝える力を持っているタレントさんだと思っていました。12年2月のCM撮影

初日、「なぜ検査に行かないんですか」と佐賀弁のアクセントで呼び掛けるシーンを見て、はなわさんにお願いでよかったと確信しました。はなわ いや、ありがとうございます。

江口 県内各地にはなわさんを連れ出してCMを撮影しました。ポスターもあらゆる場所に張り付きました。肝臓病と実際に闘った患者さんにご協力をいただいて実現した対談では、はなわさんの真摯な言葉が多くの人々の心を動かしました。

依頼を受けた時はどう感じましたか。

はなわ 自虐的に歌った「佐賀県」で、佐賀の皆さんにこ

はなわ 「ワースト返上」目標に共感

迷惑もおかけしたという気持ちと、佐賀県のおかげで今の自分があるという思いがありまして、何か恩返しをしたいと感じていた時期でした。それに、江口先生の「肝がん死亡率全国ワースト」の汚名を返上したいという思いに感動して、私も一緒に闘いたいと思いました。

キャンペーンの結果、検査数が増えました。

江口 「はなわさんの効果」は絶大です。肝炎ウイルス検査は無料で、県内約2500の医療機関で受けることができます。キャンペーンの効果で、毎月の検査数は以前の400〜500人からピーク時には約2千人にまで増えました。把握できていない人も含めると年間約3万人が検査をしたと考えられ、うち約5千人が治療にたどり着きました。はなわさんが実際に採血したシーンで「痛くないですよ。簡単。だから検査を受けましょう」と訴えたりリアルな言葉が、県民を後押ししたと思います。「はなわさんの検査

江口 リアルな言葉、県民後押し

と一緒に受けませんか？」と保健師さんが勧めて「あ、あの肝炎の検査ですね、はい、受けておきましょう」とスムーズに検査につながったこともあるというから驚きです(笑)

はなわさんは手応えを感じられましたか。

はなわ CMの「行かんばい肝」を、佐賀のライブで歌うとメチャ盛り上がりです。ライブに来た若者やお年寄りが、「検査に行きましたよ!」と声を掛けてくれました。エンターテインメントの力を実感しました。

不安を感じている方に安心感を与えてくれる肝炎医療コーディネーター(12〜13面参照)の存在も大きいですね。だから、僕は皆さんに安心して検査や治療を勧めることができます。

2018年、ついに肝がん死亡率が全国ワーストを脱却しました。

はなわ 江口先生が喜ぶ顔が目に見えました。佐賀県民

は真面目で、目標に向けてすごい力を発揮します。その県民性を発揮した成果ですね。対策チーム、行政、県民が一体になったことも大きいです。佐賀だけでなく、全国でも肝がんの死亡率を下げなくては、との思いを強くしました。

江口 長野県の肝がん対策のイベントにも呼ばれるなど、はなわさんが肝がん撲滅に取り組んでいることは全国に広まっていると感じますね。

死亡率がワーストレベルであることは変わりなく、活動の継続は必要です。

はなわ 検査だけでなく、治療も安心して受けられることを伝えていかなくてはいけないと思っています。県民の皆さんがポジティブ思考になるように気持ちを立てていくことが私の役目。これからも佐賀県全体でワンチームになって頑張っていきたいと思います。

江口 ワーストは脱却しましたが、まだ検査を受けていない方や治療を思いとどまっている患者さんは少なくないと聞いています。はなわさんと、佐賀県の肝がんが完全に撲滅されるまで一緒に頑張っていきましょう。

この対談は6月11日、東京のはなわさんと佐賀の江口氏をオンラインで結んで行いました

みんなも、肝ちゃんと一緒に自由研究をやってみよう!

肝ちゃんの自由研究

テーマ / 肝臓は病気になるとどうなるの?

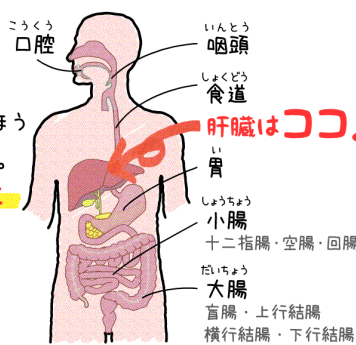
研究結果!

きっかけ ぼくが暮らしている佐賀大肝疾患センターのお医者さんたちが、肝臓の病気を減らすために一生けん命お仕事をしていたので、ぼくも肝臓の病気について調べてみることにした。

予想 肝臓は大きいし、切り取ってもまた元気になるって聞いたことがある。病気になっても、大丈夫なのではないか?

肝臓について

肝臓は人体最大の臓器で、おなかの右上のほうにあり、大人では1200~1400gの重さがある。
→これは、1Lのペットボトルと大体同じ重さ!
健康な肝臓は、牛や豚のレバーと同じで、暗い赤色をしている。



主なはたらき

栄養素の貯蔵庫!

口から入った食べ物は、そのままではエネルギーとして使えないため、肝臓で使いやすい物質(グリコーゲンなど)に変えて、蓄えている。

毒を分解!

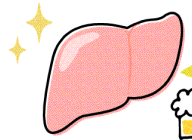
お酒や薬などを分解するときでできた有害な毒を、害のないものに変えることができる!



色んなすごい機能があるんだね! だから、現代でも完全な「人工肝臓」を作ることができていないんだって!

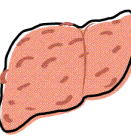
肝臓の病気って何があるの?

正常な肝臓

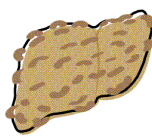


肝炎ウイルス
B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス
お酒の飲み過ぎ、食べ過ぎ
その他 自己免疫性肝炎など

慢性肝炎



肝硬変



肝がん



肝臓は、切り取られても再生することができる。また、大部分が壊れても、働き続けることができるとも言われている! そのため、病気が進行しても症状が出にくく「沈黙の臓器」と呼ばれている。

病気になっても、大丈夫?

大丈夫ではない!

肝硬変や肝がんは命にかかわる病気!

早い段階で見つけて、治療をすれば、治すことができる、もしくは進行を遅らせて寿命を延ばすことができる! しかし、肝臓は「沈黙の臓器」! 「病気があるかも」「検査にいかう」と思わないと、手遅れになることもある…

メモ

特に、佐賀県では、原因となる肝炎ウイルス陽性者が全国よりも多く、注意が必要!

どうしたらいいの?

検査を受けよう!

原因となる肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、簡単な血液検査で調べることができる。

また、慢性肝炎や肝硬変、肝がんがあるかどうかは、エコー(腹部超音波)検査で調べることができる。この検査は、放射線を使わない、痛みがない、短時間でできる、患者さんに負担が少ない検査!



お酒の飲み過ぎ、食べ過ぎでも肝硬変や肝がんになる!
思い当たる人はお医者さんに相談しよう!!

まとめ!

肝臓の病気は進行すると、肝がんや肝硬変になり、命にかかわる!

感想 肝臓の病気は怖いと思ったが、早めに検査を受けると、きちんと治療できることがわかった。特に、肝臓は症状が出にくい「沈黙の臓器」なので、症状がない人、自分は大丈夫と思っている人にも、ぜひ検査に行ってもらいたいと思った。

参考資料: 佐賀大医学部附属病院 肝疾患センターHP <https://sagakan.med.saga-u.ac.jp/>

制作・発行/佐賀新聞社

肝炎? クイズ

第2問 第1問目は13面へ!

肝臓の病気を見つけるためには、何が大切でしょうか?

- A. 血液検査(肝炎ウイルス検査)を受ける
- B. 腹部エコー検査を受ける
- C. A・Bどちらも大切!

正解者の中から、抽選で3名様に **佐賀県産品(5000円分相当)プレゼント!**

応募期間 2020年7月26日(日)~8月7日(金)

応募方法 以下のHPの応募フォームから応募ください。
<https://sagakan.med.saga-u.ac.jp/>

応募資格 日本国内にお住まいの方(賞品の発送先が日本国内の方)で、お1人さま1回限りとさせていただきます。

当選発表 プレゼントの発送をもって代えさせていただきます(8月下旬を予定)。

当企画に関してご提供頂いた個人に関する情報は、賞品の抽選・当選者への連絡・賞品発送・個人を識別できない統計情報作成の目的にのみ利用させていただきます。応募者の個人情報、佐賀大医学部附属病院 肝疾患センターにて厳重に管理を行います。

《問い合わせ》佐賀大医学部附属病院 肝疾患センター TEL. 0952-34-3010

